

ルーマニアのティミショアラ工科大学で共同イベントが開催されました（2024/11/24）

テーマ：国際連携、災害科学

場所：ルーマニア、東北大学、ティミショアラ工科大学、災害科学国際研究所、オンライン

2024年11月24日、在ルーマニア日本大使である片江学巳大使と智片通博特任教授（客員）（災害文化アーカイブ研究分野）が、ティミショアラ工科大学で開催中の日本秋祭り「Kakehashi」参加のため、ティミショアラ工科大学（UPT）を訪問しました。学術的および日本とルーマニアの文化的な交流を深めることを目的とし、東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）との共同イベント「災害から学ぶ防災と軽減」も開催されました。この公開イベントでは、災害科学、復興、レジリエンス構築における学際的なアプローチが取り上げられました。

イベントでは、東日本大震災の状況とその後の復興へ尽力した人々を描いたドキュメンタリー映画『大津波 3.11 未来への記憶』が上映されました。また、東北大学災害科学国際研究所の今村文彦教授（津波工学研究分野）による、津波のメカニズムや災害科学、復興支援の重要性に関する講演が行われました。

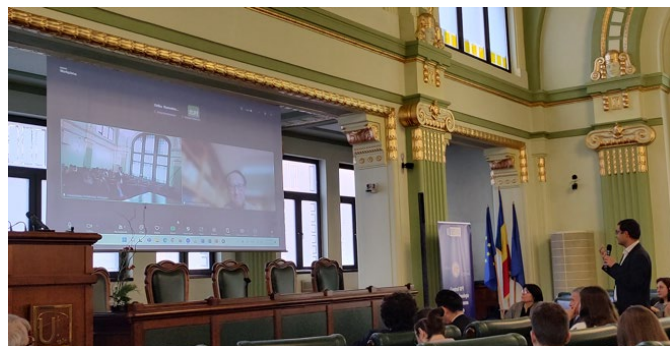
さらに、「災害の記憶とアート」に焦点を当てた文化的な視点も共有されました。北村美和子特任研究員（国際研究推進オフィス）は、能登半島地震とロンドン大火に関する記憶保存の取り組みを紹介し、小松原織香教授（東北大学大学院文学研究科・文学部）は、紙芝居を活用した水俣の環境災害の記憶伝承について発表しました。これらの発表は、災害記憶を未来に伝えるための芸術の役割を強調するものでした。

イベントはQ&Aセッションと、東北大学の教員によるオンラインでの挨拶および将来に向けた展望の共有をもって締めくくられました。

今回の活動は、ルーマニアとの国際的な学術パートナーシップの可能性を改めて示すものとなりました。



Kakehashi のポスター



オンラインによる今村教授発表の会場での様子

文責：北村美和子（国際研究推進オフィス）
小松原織香（文学研究科倫理学研究室）
写真提供：智片通博（災害文化アーカイブ研究分野）